

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870101916
法人名	社会福祉法人 ともの家
事業所名	溝辺ともの家
所在地	松山市溝辺町甲119-1
自己評価作成日	平成22年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その方の望む生活に近づけていくためアセスメントで得られた情報をも元に皆で意見を出し合って居心地の良い場所となるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●月1回、利用者の希望をお聞きして計画を立てて、全員で外出を楽しまれている。お花見に出かけたり、先月は、石手寺詣りをされ、利用者お二人が書いたためた写経をお寺に納められた。系列事業所合同の遠足では、利用者と職員が協力して、飯ごうでご飯を炊き、カレーを作り野外で食事をされた。事業所のお隣のマーケットへお菓子や食材の買い物に出かけたり、日常的にウッドデッキに出てリフレッシュされている。 ●事業所では、以前は「ボディソープ」を使用されていたが「利用者にも馴染みの固形石鹸」を使うようにされて「利用者の皮膚のトラブルがなくなった」方もあるようだ。入浴を嫌がる利用者には、昼寝や散歩の後等、タイミングを見たり、新しく入居された利用者とは、関係作りに努めて支援につなげておられる。洗身用のタオルは、タオルを半分に切って、利用者に端を縫っていただいた小さいタオルを使用され、ご自分が体を洗いやすいように工夫されている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

溝辺ともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

力石まさみ

評価完了日

平成22年6月20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者サービスの基本方針に『家族、友人、地域との交流を大切にし、社会性の維持・回復に努める』を掲げ、常にホームを開放し、入居者も地域に出かけるようにしている。	
			(外部評価) 事業所は、法人の理念に沿って職員で話し合い、年間の目標を定め、食堂の目に付くところに掲げて共有されている。又、職員は、「地域との交流を大切に」地域交流ができるような取り組みを提案して、活動をすすめておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 年間4回バザーロビー展を開催して、地域の方に来ていただいたり、近くの公園へ散歩に出かけ地域の方と交流している。町内のごみ収集場の清掃、公園の掃除にも参加している。	
			(外部評価) ピアノ演奏や紙芝居、読み聞かせ等、地域のボランティアの方が月2回、来てくださるようになっている。又、毎週、お花を生けに来て下さる方もおられて、利用者は楽しみにされている。地域の夏祭りには、毎年、利用者と職員で出かけておられる。事業所は、庭のウッドデッキをさらに広く整備され、毎月2回、手作りのお菓子と飲み物を準備して「ミニ喫茶」を開き、近所の人達にチラシで案内されており、利用者もエプロンを掛けて飲み物を運ぶ等、近所の方達との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護保険制度の仕組みのパンフレットを備えており、聞かれたとき一緒に見て説明しています。ヘルパー実習の受け入れも行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一度開催し行事の予定を知らせたり入居者の方の生活を知っていただき非常時の協力をお願いし賛同が得られた。地域の方からも地域の話聞けてサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 会議は、市の担当者や地域包括支援センター、民生委員、ご家族、時には利用者の方も参加して行われている。会議時、夜間の火災を想定して通報や避難訓練をされたり、年に2～3回は、系列の四事業所が合同で会議を開催されており、夏祭りに参加していただいたり、新人研修を見てもらったり、ともに勉強する機会を作られている。最近の会議から近隣の人達も参加くださっており、次回7月の会議では災害時の避難訓練について打ち合わせを行う予定になっていた。	管理者は「近隣の方が事業所に関心をもっている」との情報を得て、前回は会議を夜間に行い、子供を預かる等、近隣の方達にも参加していただきやすいよう取り組まれた。今後、会議は毎回、事業所単独で開催する予定になっており、管理者は「会議を活用してより地域に根差した事業所」を目指していきたいと考えておられた。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 生活保護受給の方に年金の未払い金があり多額の収入を得た。生活保護担当者と本人相談合意の上受給をやめ、自立して生活することになった。	
			(外部評価) 運営推進会議時に市の担当者の方から、近くに池や川もあることから「水害の備えと地域を巻き込んだ自主防災組織作り」に向けてアドバイスをいただいた。又、地域包括支援センターの協力も得て、地区住民を対象に法人が主催で「地域保健福祉講座」を年に3回程開催するような計画を立てておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は、身体拘束を虐待であるとの認識を持っている。玄関や居室を施錠することなく、拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 日中は、全ての出入り口に施錠はされていない。職員は、法人内・外の研修で身体拘束について学ばれている。管理者は「言葉による拘束」について、日頃から職員と話し合うようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が虐待に対して人権侵害であるとの意識を持って防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者の中に成年後見人制度を活用しておられる方もいて支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の相談の時にはご家族と密にコミュニケーションを図り理解、ご納得していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者、ご家族が意見や不満をいつでも言える環境を心がけている。柔軟に、要望が出た場合、話し合いを持ち、運営に反映されるようにしている。 (外部評価) 利用者個々の日々の様子を手書きしたお手紙を、毎月ご家族に送付されている。又、年4回法人が「ともの家だより」を発行して、系列四事業所の行事や研修の報告、職員の研究発表等を知らせておられ、さらに、法人全体の家族会からも毎月「家族の会だより」を発行して、法人の活動や現状等をご家族に報告されている。毎月20日は、全職員とご家族も来訪して「掃除デー」となっていたが、ご家族の意見で「第三日曜日」に変更された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			全職員が職員提言メモを提出して代表者に回答を得ている。毎月の職員会議では職員の意見や提案を聞き反映している。	
			(外部評価)	
			毎月のミーティング時には、行事や外出について職員で話し合い決めておられる。庭のウッドデッキの活用 の工夫として職員からミニ喫茶開催の提案があり、地域の方にも案内して実現されていた。又、職員は「自分の提案した利用者の移乗の方法を管理者に褒められ、認められたことがうれしかった」とも話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は勤務状況を把握しており声掛けや助言をし努力を認めている。休憩室を設け休憩時間が確保できるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			毎月職員研修制度があり研修をしている。外部の研修も希望者は優先で参加できる体制をとっている。資格取得のための勉強会もある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			全国組織のシンポジウムやセミナーに参加したり施設を訪問し質の向上のための取り組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			寄り添い、共感することで本人の思いを汲み取れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時等にきちんと面談を行い傾聴に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時には本人、家族が適切な支援を受けられるため にあらゆる角度から判断しその方にあったサービスを 提示するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 職員は介護行為の都度『ありがとうございます』と感 謝の念を伝えています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族をケアパートナーと位置づけ家族と共に支えてい く。月に一度の清掃デーを設けて居室の清掃、衣替え をしていただいております。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 子どもの家や家族の家への訪問の支援、家族の方が ホームを訪れやすいように日頃の入居者の様子などを 手紙を通して家族に報告し訪問を呼びかけている。 (外部評価) 娘さんが住んでいる「千葉に行きたい」というご本人 の思いを、職員がご家族にお話ししたこともあり、息 子さんとともに千葉を訪問された利用者がおられる。 ご家族の協力も得て、1年に利用者一人ずつ順番で、 職員も同行してふるさとを訪ねる支援をされている。 退職された職員が、利用者の誕生日にお祝いに来てく れることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の家事やレクリエーション等を通じて職員の橋渡しにより相互理解を深め、支えあいが出来るように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 年に4回発行している『ともの家だより』を送付したり、バザー、ロビー展の案内をしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時に本人や家族に暮らし方の希望を聞き、その考えをケアに活かしている。 (外部評価) 利用者との普段の会話から思いや希望、意向を把握されている。意思表示が困難な利用者は、外出時やご家族の訪問時等の表情から思いの把握に努めておられる。新しく入居する利用者については、職員全員でご本人やご家族から希望や意向、これまでの生活の様子等についてお話を聞き取るようにされている。	さらに、職員が日々利用者とかかわる中から得た利用者個々の思いや意向についての情報を、集めていけるようなアセスメントを工夫されて、本人がより良く暮らすための計画に反映していかれてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族に聞いたり、会話の中から探ったりみんなで話し合い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日一日の生活の様子を記録に残し、職員同士の報告を徹底している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人、家族と話し合い、職員同士が意見を出し合い話し合っ て介護計画を作成している。ケアプラン作成時に家族の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画は、職員全員がそれぞれ原案を作り、ミーティングで話し合っ て、担当者がまとめ作成されている。計画の見直しは、3カ月ごと、又、介護度重度の方は、半年ごとに行っておられる。管理者は、今後はミーティングでの話し合いには、ご家族も参加いただけるよう、働きかけていきたいと考えておられた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			個人記録にケアの実践状況や結果を記録しその情報を職員たちが共有することで介護計画の見直しなどに活かしている。	
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて通院、外出に付き添い、その他ニーズに応じて柔軟な支援、訪問マッサージを受けた方もいる。週一回生花をされている。正月に自宅に泊まった方もいる。	
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			隣のスーパーへの買い物、美容室の利用、近くの公園へ散歩を日常的に支援している。又、バザーやロビー展を開催し地域の方々と交流している。ボランティアや地域の方の訪問をおおいに受け入れている。パン屋さんも来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			希望のかかりつけ医を受診していただいている。重度 の方はご家族とも相談して24時間対応の訪問診療を 受けられる体制にしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(外部評価)	
			協力医は、月に一度往診があり、24時間いつでも対応 してくれるようになっている。事業所の看護師資格を 有する職員とも、24時間相談できる体制になってい る。訪問歯科の診療の利用や専門医の受診は、ご家族 や職員が付き添い支援されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい	(自己評価)	
			看護師に必要に応じて相談して助言指導をもらってい る。24時間相談できる体制をとっている。	
33	12	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい	(自己評価)	
			入院時には医療機関と情報交換し相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			看取りに関して普段から家族や関係者と話し合いス タッフ間でも話し合うようにしている。看取りの資料 を備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(外部評価)	
			事業所では、ご本人やご家族から希望があれば終末期 まで支援できることを説明して、段階に応じて話し合 い確認されている。6月には、100歳を超える利用者を 事業所で看取られた。その際、ご家族は夜間の見守り 等に協力いただき、医療機関とも連携を図りながら支 援された。職員は「研修を受けて、人が死に至る過程 や段階について知識等を得たことで、怖くなかった。 看取りの研修を受けていてよかった」と話されてい た。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応についてマニュアルを作成している。又、医師や看護師から研修会で応急手当等、実践力に結びつくように努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防署の指導を受け、避難訓練を実施し、防災設備の充実も随時検討している。 (外部評価) 避難訓練の際に消防署の方からの指導があり、事業所では、防災加工をしていないカーペットを外された。又、のれんの扱いについてもアドバイスをいただいた。台所と居間に水を入れたバケツを防火用に置いておられる。8月には、近隣の方達にも参加いただき、災害時の避難訓練を行う予定になっている。ウッドデッキから車椅子で庭に出ることが出来るようにスロープを作られ「避難経路が一つ増えた」ようである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ともの家の運営理念である尊厳ある生活を保障するを接遇態度でも言葉かけを大事にしている。他に発信する場合は本人や家族に了承を得て意見を尊重し、プライバシーの保護を行っている。 (外部評価) トイレへの誘導時は「手洗いに行きませんか」等、言葉かけに配慮して、トイレ使用中は膝にバスタオルを掛け、職員はトイレの外で待つようにされている。パット類が置かれているトイレの中の棚には、目隠しのカーテンを付けておられた。調査訪問日の昼食後に薬の内服を嫌がる利用者に、時間をおいたり、職員が交代して支援されている様子がうかがえた。管理者は、職員に「利用者に指示をしないケア」を実践できるよう話しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活は自己決定、意思に基づき、インフォームドコンセントを行い、説得ではなく納得を待って介護している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の体調やペースに合わせて生活を送っていた だいている。本人の意向を大切に支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿った衣類を選んでいただいている。髪型、身だしなみに気を使っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの食べ物を尋ね、それを献立に反映したり、食事の盛り付けや片付けを一緒に行っている。 (外部評価) 今年5月に、法人内に給食センターが設置されて、昼食と夕食の主菜は、給食センターから届くようになって いる。調査訪問時、昼食は、利用者と職員が一緒に盛り付けをされていた。週1回、昼食は利用者の希望を採り入れて事業所で手作りされる。椅子の高さ等も調節して、ご本人が食事しやすい姿勢にも気を付けておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事チェック表を用い、一人一人のその日の状態に注意し、食べる量が少ない方には栄養補助食品で補ったり、水分をゼリーで摂取していただいたり、こまめに提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアをするようにしている。定期的に訪問歯科医に診てもらい、アドバイスをいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンをチェック、把握しできるだけトイレでの排泄の支援をしている。随時トイレ誘導している。サインを見逃さない。	
			(外部評価) 昼間は、利用者全員がトイレで排泄できるよう支援されている。又、「ご本人が上げ下げしやすい」下着の使用等、ご自分で排泄しやすく、又、おむつを使用せずに済むよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) こまめな水分摂取、食物繊維の摂取、又運動への働きかけをし取り組んでいる。	
			(外部評価) それぞれの体調にあわせ入浴をしている。無理強いることはせずにより楽しめる入浴を心がけた支援を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) それぞれの体調にあわせ入浴をしている。無理強いることはせずにより楽しめる入浴を心がけた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者個々の希望や体調に合わせて、週に2～4回入浴できるように支援されている。事業所では、以前は「ボディソープ」を使用されていたが「利用者にも馴染みの固形石鹸」を使うようにされて「利用者の皮膚のトラブルがなくなった」方もあるようだ。入浴を嫌がる利用者には、昼寝や散歩の後等、タイミングを見たり、新しく入居された利用者とは、関係作りに努めて支援につなげておられる。洗身用のタオルは、タオルを半分に切って、利用者に端を縫っていただいた小さいタオルを使用され、ご自分が体を洗いやすいように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の体調状態にあわせ日中の臥床を取り入れている。安心して安眠出来るように言葉かけをし、冬場は湯たんぽを使用して支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療情報に一人一人の薬の内容について記録している。服薬の支援と症状の変化に気づけるように観察を怠らないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物干し、たたみや食器拭き、料理の盛り付け、下ごしらえ等を通して個人が活躍できる場を広げている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物にでかけたり、遠足、花見等を通じて外出を楽しんで頂いている。外に出られない時であっても外のデッキなどを利用して外気浴を楽しんでいただいている。 (外部評価) 月1回、利用者の希望をお聞きして計画を立てて、全員で外出を楽しまれている。お花見に出かけたり、先月は、石手寺詣りをされ、利用者お二人が書きためた写経をお寺に納められた。系列事業所合同の遠足では、利用者と職員が協力して、飯ごうでご飯を炊き、カレーを作り野外で食事をされた。事業所のお隣のマーケットへお菓子や食材の買い物に出かけたり、日常的にウッドデッキに出てリフレッシュされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出かける際、ご本人のお金を使ってものを購入していただくようにしている。本人が管理出来ない場合であっても職員の関りで支払いをするようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に手紙を書くよう勧めるなどしている。電話をしたいと希望された場合は出来る限りその要望にこたえている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日々の環境整備に気をつけている。移動がしやすいように机、家具などの配置に配慮している。	
			(外部評価) 食堂は吹き抜けになっており、天窓や庭に面したガラス戸から自然の光が入り、明るい空間になっている。玄関や居間、食卓テーブルの上にボランティアの方や利用者が生けた季節の花が飾られていた。居間の壁には、利用者が入居前に作成したフランス刺繍が額入りで飾られてあった。調査訪問時は、利用者と職員がウッドデッキでお茶の時間を楽しんでいた。又、昼食後は、居間のソファで、うちわを片手にくつろいでおられる利用者の様子もうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い人同士を近くの席にするなどの工夫を行っている。一人になれる、落ち着ける居場所としてソファを活用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人の家にあった家具や仏壇など馴染みの物やご本人の好きなものを居室に置いて居心地の良さを工夫している。	
			(外部評価) 居室は畳部屋になっており、使い慣れたベッドやお仏壇を持ち込まれている方や、壁に額入りの勲章を飾っておられる利用者もあった。毎朝、職員と一緒に居室の拭き掃除をされている利用者もある。又、毎月、第三日曜日の「掃除デー」には、ご家族が来られて、利用者とともに居室等の掃除をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレに手すりを設置し、ご自分の力で立位していただいている。玄関にはイスを置き、座って靴を履けるようにしている。	